

チリ 果実の輸出に後押しされ史上最高の食品輸出を達成

[FreshPlaza 2025年7月25日](#)

2025年上半期のチリの食品輸出額は124億6千万ドルに達し、前年同期比9.5%増で史上最高となった。この伸びは、サクランボ、ブドウ、キウイをはじめとする同国の生鮮果実輸出のおかげで可能となった。

チリ税関の数字に基づくProChile(チリ外務省の輸出促進部局)市場情報部のデータによると、物流、天候、地政学の面で困難な国際情勢にもかかわらず、果実の輸出は数量と金額で大幅に増加した。

生鮮サクランボは果実部門の主要な原動力として際立っており、輸出額は22億4,300万ドルで、2024年の同時期に比べて14.4%増加した。この結果、生鮮サクランボは同国第2*の輸出食品としての地位を確固たるものとし、夏季における戦略的役割が再確認された。(*下記の出典によれば第1位はサーモン)

中国と米国が引き続き主要な輸出先であったが、販促キャンペーンと安定した品質の果実の提供により、アジアとヨーロッパの新たな市場への多様化も進んでいる。

生食用ブドウの輸出額は前年比10.9%増の3億2,500万ドルで、これは種なしの白ブドウ及び赤ブドウ品種をはじめとする輸出キャンペーンの改善によるものであった。

キウイフルーツの輸出額は1億5,500万ドル(+11.6%)に達した。この増加は、果実のサイズと硬さの向上のほか、韓国、インド、東ヨーロッパ諸国等の輸出先での価格の上昇に起因している。

ナッツ及びドライフルーツ部門も記録的な数字となった。クルミの輸出額は1億4,500万ドル(+53.6%)に達した。ヘーゼルナッツの輸出は、特にドイツ、イタリア、オランダ等ヨーロッパ市場の需要によって推進され、輸出額は1億4,400万ドルと倍増した。

米国と中国は引き続きチリの農業部門の主要な貿易相手国であり、それぞれ28億9千万ドル及び27億9千万ドルを輸入し、合わせて輸出総額の46%近くを占めた。

また、チリにとっての新たな市場への輸出が大幅に増加したことも注目に値する。

日本:+4.5%(8億4,400万ドル)

韓国:+14.8%(3億2,500万ドル)

インド:+19.7%(7,300万ドル)

ASEAN:+32.2%(2億8,900万ドル)

欧州:+22.7%(20億4,000万ドル)

アフリカ:+32.7%(2億8,300万ドル)

今後の課題としては、輸出先の多様化の継続、港湾物流の強化、気候変動への適応、高品質果実の供給における世界的なベンチマークとしてのチリの地位の定着が焦点である。

出典: frutasdechile.cl